

大妻女大：大森正司、岡田安代、岡本順子、矢野とし子、聖カタリナ短大：加藤みゆき  
岐阜大：長野宏子、産業能率短大：田中功、備外国文献社：中村重男

《目的》一般に、研究を開始するにあたり、今迄なされていた関連の研究を調べる事はまず行わなければならない。一昔前までは図書館に何日もこもって、ケミカルアブストラクトをめくる、という事がなされていたが、現在は科学技術情報センター、化学情報協会、学術情報センターなどに依頼すればオンラインでもオフラインでも検索サービスが瞬時に受けられるようになった。しかしながら、家政学プロパーの研究は既存の情報センターでは対応が困難であり、衣、食、住、児、経営、原論すべてを縦横に網羅し、検索サービスをするためには家政学情報センターなるもの設立が望まれるところである。本研究では、家政学文献検索システムとして、キーワードシステムと分類表での方法を比較し、その効用について検討した。

《方法》1979年、第31回日本家政学会大会講演要旨集の全発表論文 479件を対象に分析した。家政学文献検索システムGベースを作成し、全発表論文 479件の論文タイトル、著者名、所属機関、誌名、vol.、ページ、発行年、キーワードを入力した。また、家政科学技術分類表(CHE)を用いてインデクシングし、付与された標数を入力した。出来上がったデータベースから検索モデルを作成して、分類表(CHE)とキーワードシステム(KW)を比較検討した。

《結果》検索モデルからの出力個数は、概してCHEの方が多く、KWの1.0~1.5倍であった。また、KWの場合、家政学関連分野においては、未だ用語のシソーラスが作成されていないので、サウンド(必要な情報)を落とす事が懸念された。多少のノイズはマニュアルで選別できるところから、家政学文献検索用シソーラスの作成が急務であると考えられる。